

第4回鳥栖市総合教育会議 議事録

会 議 名	第4回鳥栖市総合教育会議
日 時	平成28年5月18日(水) 開会 午後 1時10分 閉会 午後 2時45分
会 場	市役所3階第1委員会室
公 開 ・ 非 公 開	公開
出 席 者	構成員：橋本市長、西山教育委員長、吉原教育委員長職務代理者、 深川教育委員、古澤教育委員、天野教育長 事務局：江寄教育次長兼教育総務課長、柴田学校教育課長、 木村学校教育課参事兼課長補佐兼指導主事、 原教育総務課総務係長
傍 聴	1人
協 議 事 項	◆平成27年度 教科「日本語」実施状況について ◆プログラミング教育について
発 言 者	内 容
江寄教育次長	<p>それでは皆様、改めましてこんにちは。定刻ちょっと前でございますけれども、お揃いのようなので、ただ今より第4回鳥栖市総合教育会議の方を始めさせていただきます。</p> <p>本日御議論いただく案件につきましては、お手元の次第にありますように、『平成27年度 教科「日本語」の実施状況について』と『プログラミング教育について』というようなことで御議論いただければと思います。なお、進行に当たりましては、橋本市長の方をお願いすることになりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>市長、よろしく願いいたします。</p>
橋本市長	<p>皆さん、こんにちは。今日はお忙しい中、総合教育会議にお越しいただきましてありがとうございます。また、普段から鳥栖市の教育について様々な観点から御指導いただいております、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。</p> <p>今日は、皆様にも様々な御指摘をいただいております「日本語」の今の状況について御報告をし、御意見を賜りたいと思いますのと、今、国の方でも出でてきておりますプログラミング教育、この辺を今後我々としてどうしていくのかということについて御議論を賜ればと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>では、事務局から「日本語」の実施状況について報告をお願いいたします。</p>

柴田学校教育課長	(資料に基づき説明)
木村学校教育課 参事	
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>今御報告いただいた中で、ちょっと御質問、私からしたいのですが、教科書改訂ということで書かれておりますけれども、今回の改訂の目的というか、目指すところについてちょっと御説明をいただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。</p>
柴田学校教育課長	<p>教科書の改訂につきましては、1 つは、教科書完成させましたけれども若干手直しが必要なところ、例えば、懐石料理っていうところが中学校出てきますけれども、説明と違う写真が載ってしまっておりました。誤字・脱字等も若干見つかっておりますので、そういった基本的なところの改訂が1つと、並びに、最初に申しました、子どもたちだけでなく地域社会の関心が非常に高く、是非手に取って見てみたい、自ら学びたいという大人の方ですね、そういった方がたくさんおられるところでございます。初版については教科書として扱うといった許諾しか、著作権あたりとっておきませんでしたので、そういった著作権面のクリアで広く販売できる。欲しいと言われている方にお分けすることができないかといったところで、その著作権の許諾あたりが、今の教科書でどの部分がそのまま使えて、変えるべきところはこういったところかといったところを考えて参りたいと思っております。</p> <p>それから、日本語コーディネーター第1回研修会をこの前行いましたけれども、実際鳥栖中学校においては2年間教えられて、他の小中学校におきましては昨年使用されてみて、こういった狙いだったらもっとこういった教材の方が良かったなといった御意見も若干聞いておりますので、もし変更した方がいいところがあれば、より良いものといったところで改訂していければと考えております。以上です。</p>
橋本市長	はい、ありがとうございます。それでは内容の差替えもありということに理解してよろしいですか。
柴田学校教育課長	場合によってはあります。
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>委員の皆様から何か御指摘、御意見、御質問等ありましたらちゅうだいします。はい。</p>
古澤教育委員	今の関連ですけど、当然教える立場の先生方1年間やってきて、それぞれ、例えば、先生方なりにここはこうしたいとか、そういったのがたくさん寄せられていると思いますので、そこら辺のこ

	<p>とは反映するようにはなっているのでしょうか、システム上。</p> <p>それともう1点。つい2週間程前でしょうか。NHKの夕方の番組で、この分の一般の方を対象とした勉強会というか、PRが麓のコミュニティセンターであってました。見た時に、わあ、いいことやってあるなと思いました。そういった部分については、しっかりと今度はエリアも増やして、大変なエネルギーだろうと思いますけど、非常にいいことだと思いましたので、継続して取り組んでほしいと思います。以上です。</p>
橋本市長	はい、ありがとうございました。
柴田学校教育課長	<p>1点目の改訂について、教職員から声をいただいている分につきましてはですね、先程アンケート結果がありましたけれども、自由記述の部分で、先生方でこういったところが非常に難しかったとか教えるに良かったとか、逆にこういったところは非常にやりやすかったというような声もいただいております。今後、昨年度末にとりました教職員のアンケートを参考にしながら、改訂に活かして参りたいと考えております。例えば、こう礼儀作法のところで電話の出方あたりも載せておりますけれども、父母はおりませんっていう答え方が防犯上いいのかとか、そういったところの御意見等もいただいておりますので、いろんな視点から見直しをして参りたいと考えております。</p> <p>もう1点の一般の方々を対象にした教科「日本語」の講座ですけれども、木村指導主事が麓のまちづくり推進センターから依頼された形で行ったんですけれども、非常に好評をいただきまして、アンケート結果を見せていただきましたが、参加された方々からも非常に好評であったということから、ただいろいろ他の業務もありますので可能な範囲です、今後考えて参りたいと思っております。</p> <p>やはり何より教科「日本語」につきましては、いかに定着させていくかっていうところが鳥栖市の課題だと思っておりますし、ここ1年2年じゃなくてですね、10年ほどかけて今後の定着っていうのをまず考えて参りたいと考えてるところでございます。以上です。</p>
橋本市長	他ございませんか。はい、どうぞ。
深川教育委員	<p>取り組み始めた時に一旦、先生方は足並みが揃うと思っておりますけれども、毎年先生方、入れ替わりが出てきますので、なかなかその流れに乗り切れないで足踏みされる先生方のこともかなり配慮をいただかないと、今後足並みが揃わないのじゃないかとちょっと心配なところです。</p>
橋本市長	新しく転入された方への対応、ちょっと説明をお願いします。

柴田学校教育課長	<p>その辺りのことはですね、教育長も非常に気にしております、今年度人事異動についても相当数あっておりますので、教科「日本語」というものについていかなるものかということ、この中には入っておりませんが、鳥栖市に新しく来られた先生方を対象とした研修会、これを、まず教科「日本語」がどういう位置づけで、狙いとか、そういったところまで、各学校で指導していただいているとは思いますが、教育委員会の方から研修会を実施するというので、1学期中の早い段階で、うちの主催で行うということを考えておりますし、来年度以降もですね、毎年人事異動はありますので、新しく鳥栖に来られた方にはこの教科「日本語」を学んでいただく研修会を実施したいと考えております。</p>
橋本市長	<p>今のよろしいですか。はい、どうぞ。</p>
西山委員長	<p>改訂にあたって、いろいろ御指摘とかですね、御意見とかあるということで、それは手直しをするとして、それ以外に先ほど御説明されました委員さんからの御意見とかですね、増える内容を、少し充実するとか改訂するとかそういった観点で、今具体的にですね、何かあの幾つか、どういった、例えば郷土文化、まあそういうような、今後改訂する内容で具体的に何か今御意見等があるのがあれば教えていただきたいと思います。</p>
柴田学校教育課長	<p>具体的についていうところがですね。例えば、論語についてはですね、ちょっと先生方も難しいとか、どうなのかっていうふうな御意見もありますけれども、論語については残そうということで考えております。そこが1つ、御意見の中で、去年、年度末あたりに出ておりました。長野指導主事が東部教育事務所に参りましたけれども、長野指導主事もうちから出ましたが、その辺非常に気にしております、自分自身で鳥栖に来て、論語の授業をちょっと模範授業的にやってみたいというふうなことも申しておりますので、そういった授業も公開できればですね、公開して行って、先生方に、論語の授業はこういうふうになれば自分たちも気軽にできるんだとか狙いとかですね、そのあたりを浸透させて参りたいと考えています。</p> <p>内容の充実については、いろいろ御意見ありますけど、時数も決まっております、それぞれの狙いをもって最初配置しておりますので、その辺のバランスですね。増やす分はどこか減らさなくちゃいけないので、具体的にどこを増やすとかいう計画は今のところありません。</p>
橋本市長	<p>はい、今の答えでよろしいですか。</p>
西山教育委員長	<p>はい。</p>

<p>吉原教育委員長 職務代理者</p>	<p>一般の方々への周知とかですね、啓蒙ということで、先程も麓の方でされたということで、当然広めていくのがいいかと思うんですが、なかなか大変だろうと思うんです。</p> <p>例えば、学校授業参観が今かなりの頻度で、昔と違って各学校かなりの頻度であってしますので、そういう授業参観を、オープン参観日とかあるところがありますので、その辺を各学校の方に話してですね、学校の協力の下、地域の方々にもうちよっとならうか、ということで日本語教育の授業、公開授業がありますよということで周知されて広めると、そこそこ広まっていくのかなと思いますので、よろしくお願いします。</p>
<p>橋本市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。どうぞ。</p>
<p>柴田学校教育課長</p>	<p>今の点につきましては、やはり大事なことだと思っております。木村参事からも少しだけ説明がありましたけれども、今年度、先程言われた授業参観もですね、活用しまして、どの先生方も、授業参観が年間7、8回、あるいは10回程ある学校もありますけれども、どこか1回は保護者に公開をしてくださいますといたところで保護者への啓発を図ると。また、鳥栖市教育の日を6月12日に実施しますけれども、その辺も市でまとめたプリントを作っております。その中でも教科「日本語」を公開するところは星印を入れて目立つようにしたりとかしております。</p> <p>また、学校のホームページ等も活用して、教科「日本語」の内容について広く周知していくとか、何らか啓発活動についても考えて参りたいと考えております。</p>
<p>橋本市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。どうぞ。</p>
<p>古澤教育委員</p>	<p>先程の話に戻りますけど、論語の話です。昨年鳥栖小学校を視察した時に、まず最初に入って行って、暗唱してあるのを聞いてインパクトを受けたのを覚えています。凄いなと思いました。</p> <p>日田に昨年視察に行かしていただいた時に、あそこは学者さんで広瀬淡窓さんという有名な方が出ておられて、あの方の難しい言葉も子供さんたち全員暗唱をする。子供さんだけではなくてその親御さんもそのお爺ちゃんの世代も当然ながら暗唱をするということで、意味まで深く理解してるということでした。</p> <p>論語、確かに難しいと思いますけど、鳥栖は鳥栖なりに独自の分をやり続けて、最初難しくても、もう取っかかりとしてやってあるんだし、効果としてはすぐには出ないかもしれないけれども、効果としては見込めると思いますので、しっかり継続してやっていていただきたいと思っております。</p>
<p>橋本市長</p>	<p>安易な内容の妥協はするなというご指摘です。ありがとうございます</p>

	<p>ます。 ええ、教育長、どうぞ。</p>
<p>天野教育長</p>	<p>いろいろ多くの御意見いただきまして本当にありがたく思っております。</p> <p>一生懸命学校教育課の方も取り組んで、新しく参りました木村参事の方もですね、中心になって頑張ってるんですけども、私も今年は1つが教科書の改訂ということで、先程出ましたように、広く市民にお渡しすることができるように著作権の問題をクリアしたいというようなことが1つですし、もう1つが、やっぱりこのアンケート調査があったようにですね、もう皆分かっているんですよ。とても素晴らしいし、保護者も子供も大好きって。それから教職員も非常にこう素晴らしい、楽しいと言っているんですけど、やっぱり如何せん、教材研究、それから授業をするのが難しいというところがですね。これだけやっぱり差があるというようなところをいかに今後我々が教育委員会として、また鳥栖市全体として行っていくかというところが1つのポイントだと思います。</p> <p>もう1つ、3つ目が、さっきから新しい流れが来てっていうのがありましたけども、麓の方でのまちづくり推進センターの『大人も受けたい授業、教科「日本語」』という形で、中尾センター長さんの方から話があってということで、そういう地域に啓発、いかにまた啓発していくかというようなこと、教科書の部分等も含めて、同じような部分もあるんですけどそんな気がしています。</p> <p>そこで特にあの、私は「難しい」っていう、非常にそれはやはりあの、最初4月の1日の辞令交付式の時にこのことを話したら、やっぱり皆こう話を聞いてると、教科「日本語」の授業どがんしようかなと、非常に不安を持って入って来られた教職員の方々が結構おられるみたいですね。で、また学校によってはですね、3年目してる学校と、やっと2年目になってどうにか1年間やってっていう学校。それから校内研究で実際一生懸命研究やってる学校とやっぱりなかなか校内研究でも選んでない、やらされ感もあるような学校とか、非常に12校の中で差があるので、その辺はやっぱりこう平準化して、難しいんじゃなくて楽しくやっていこうっていうようなことのためにですね、取り組んで、いろんな手だてに取り組んでいかないといけないっていうふうに思っています。</p> <p>1つは教材研究のための学習環境づくりっていうのをですね、本当はもっともっとやっぱり教育委員会としてやっていくべきじゃないかなというふうに思ってます。手引書作成ということで、やっとうこう行ったんですけども、データの方にはですね、簡単な授業内</p>

	<p>容は入ってるんですけど。もっとう職員がぱっと見てできるような、そういう環境の整備であったりとか、校長さんに言ったのは教材準備、教材をそれこそ溜めて教材室をつかって、教科「日本語」に、そこに行けば教材集められてすぐできるような体制を作りなさいとかですね。そういう環境、それから人材バンクあたりもですね、もっとう整備しなくてはいけないんじゃないかなと思います。</p> <p>市長さんの方から芸術家派遣事業もあるよというような話をですね、以前聞かせていただいたんです。今年は県の特別非常勤の事業の方ですね、市内ほとんどの中学校も含めてたくさんの申請を上げたらたくさん認められたので、そういったところも含めて、もっとうこの人材バンクも含め、その充実を図っていかなくてはならないというふうに思っています。</p> <p>せっかくですね、行ってきた。今2年目、そして3年目になりますが、教科書改訂をしながらですね、職員の資質の向上を含めてしっかりやっていきたいというふうに思っております。以上です。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>はい、どうぞ、深川さん。</p>
深川教育委員	<p>はい、今教育長さんも言われましたけれども、先生方、本当に意気込んで一生懸命取り組んでいらっしゃる。その成果がこうやって地域からも認められてきたっていうことだと思いますので、その意気込みを大事にしながら、潰さないように育てていく手だてっていうのが必要じゃないかなって。それなりに、ええ、負担過重になら…あの、要求をどんどんするのは簡単なんですけれども、「ねばならない」世界に入らない程度に、どこかではちょっと予算化じゃないですけども、先程の人材バンクとか。教材にしても、自分の学校だけじゃなくて市内全体で共有できるような、そういう情報をネットワークなんかをちょっとうまく活用できるともっと…。これは一から全部準備しなくても、ちょっとあちらの道具を少し借りてやろうとかがってというようなことができると、少し気分的にも楽になれるのかなっていう感じをちょっと受けました。できるだけ応援をしていかなければというところです。</p>
西山教育委員長	<p>今いろいろ御意見がありましたように、教科「日本語」が26年から3年がかりで一応全校でですね、実証するという段階で。発表会なんか研究発表会なんか見えますと、もうこれだけやってということで、いかにもこう定着したような錯覚をですね、今年受けがちなんですけども、やっぱり今回のアンケートなんかを見ても、保護者の方はいわゆる教科「日本語」は大切だという意見が</p>

	<p>96%、ほとんど、これは大切だというように回答してありますけれども、教職員のアンケートで見えますと、楽しいというのは9割を越しているんですが、教科「日本語」は大切かということで行くと、4分の1がですね、そう「あまり思わない」、そう「思わない」ということですね。やっぱりあの、現場に行くとそれだけ難しさがですね。と、いわゆるその大切だという気持ちになるまでのところまでがですね、まだ課題があると。それから、事前準備ができたかということ、「あまりできなかった」、「できなかった」というのが3分の1。それから、コミュニケーションがとれる授業ができてるか。他の教科みたいにですね、いわゆる授業そのものがそういうコミュニケーションがとれるレベルまでですね、充実しているかということ、4分の1がまだそこまでいってないと。それから、日本語の授業を行うのは難しかつていうと、もう9割以上が難しいと。だから、現場になると、やっぱり今からが大事だと。</p> <p>ハードの事業はですね、例えば橋を造るとか建物を造るとか物を造るというのは、もうそれはできてしまうと、はい次、もう次のをまたどこかに造ろうかということになるんですけど、こういう心の問題、意識の問題、教育の問題というのは、そう短兵急にぱって行ってまた次という、そういった形にはいかない。教育行政はそういった意味では、やっぱり意識が定着をして、そして中が、内容が充実をしてこう進んで。やっぱりこれは相当期間を要する。短兵急に、もう次は何ですというような形にはいかないというのが教育行政ではないかという形で、やっぱり今後、先程教育長さんも言われましたように、今後これを本当に定着をさせていって、先生方の意識まで変わっていくということには1、2年とかそう簡単なことではない。恐らく4、5年、それ以上かかるかもわかりませんが、そういった意味では、教科「日本語」の定着というのは、本当はまだスタートしたばかりで、今からが大事だという認識じゃないかなという感じがいたしました。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。たゆまぬ努力を続けよという御指摘でありました。ありがとうございます。</p> <p>ちょっと私も幾つか御意見を申し上げたいと思いますが、木村さんが麓で市民の皆さん向けに授業をしてくださったということで、大変ありがたく思っております。これは地域の理解をどう深めるかということが1つと、あと、ちょっとこの日本語から離れますが、まちづくり推進センターというのを各小学校区ごとにつくって、そこにまちづくり推進協議会というのをつくって、やっていこうという活動。大元は、高齢化社会にどう対応するかということと、いか</p>



に地域の特色を生かした自律的な動きができる地域を育てていくかということにある訳です。その中で、多分この教科「日本語」でもそうなのですが、恐らくこの教科「日本語」を各地域ごとに噛み砕いていって、地域の民話とか地域の歴史とか、そういったものに地域の皆さんが目を向けていただくような啓発ができていくと大変ありがたいなというふうに思っております。

その中で例えば、木村さんの御指導をいただけるのかどうか分かりませんが、各地区からですね、例えば、先生のOBさん、特に国語が得意な先生をピックアップして、何十人か、母集団をつくってですね。そこに、教科「日本語」の授業をしてくださって、こういうふうに取り組んでいますという御紹介をさせていただいて、今度はその皆さんが各地区で先生役になっていただいて、地域の皆さんに日本語を教えることができる、そこに老若男女来て、一緒に学ぶということもできるでしょうし、こんな話が昔あったんだよっていうのも発掘もできるでしょうし、そんな中で地域の一体感とかということも繋がってくるのかなというふうに思いますので、学校の先生、現役の先生がそれぞれ行くというのは大変ですので、そういった考え方もあるのかなというふうに思いますので、是非そういう方向での取り組みがなされるとありがたいなと思っております。

それからあの、教科「日本語」について私も教科書を読みまして、いろんな方が、読んでくださった方がご指摘いただくのは、結構な方が初めて読んだものが結構多いということで、その分、やはりいろんな視点からですね、あの教科書を組み立ててくださったんだなというふうに思います。ですから、少なくとも教科「日本語」に書かれていることを身につけていくのが、日本人としての基礎的な教養なんだということまで高められると、これぐらい知らなくてどうするというのがですね、やっぱりあっていいんじゃないかなというふうに思います。

その意味では、内容的な妥協はね、する必要はないし、ここで易きに流れる必要もないし、やっぱり一定歯応えがあるということがね、取り組み甲斐があるということに繋がりますので、そこは踏み止まっていたいただきたいなというふうに思いますし、そういった意味での磨きをですね、かけていただけるとありがたいなというふうに思います。その意味では、特に新任で鳥栖市にお見えになった皆さんをどう応援していくかというのはですね。こんぐらい知らんで日本人として恥ずかしかよねっていうのはあっていいのかなと。我々も反省も含めてですね、そういうふうに思っております。

	<p>それとあともう1つ、教育長ともいつも話を申し上げておるんですが、これを制度としていかにこの地域に定着するかっていう仕組みづくりが要るんだろうと。</p> <p>以前も御紹介したと思いますけれども、本家本元の世田谷が非常に危うい状況になっております。世田谷区長さんが代わられ、それに伴い教育長さんが代わられ、そのお2人とも日本語に対する興味がほとんどないという状況で、ちょっと危うい状況に至っています。</p> <p>いずれ私も教育長も代わるわけですので、当然教科「日本語」を立ち上げたメンバーも代わっていく時に、これだけ議論して始めて、皆さんからも評価の高いものなんで、続けなければいけないんですが、これが「首長が代わった」、「教育長が代わった」、「やめた」ってなったら、何の意味もない。恐らく、これは取り組みとしては10年単位。10年20年やって、初めて成果が見えてくるものだというふうに思いますので、その意味ではどういう仕組みでいかに。これはやはり日本人としてやるべきもんだよねっていう、何て言いますかね、ものにしていかないといけないので、是非そういった制度づくりについても御指摘を賜ればありがたいなと思っております。</p> <p>それから、既にご紹介があったかもしれませんが、この4月で転任された佐々木さんからの置き土産として、宿題をちょうだいしております。せつかく教科「日本語」を取り組んだので、この教科「日本語」の中身を今度は中学生は英語でやるという取り組みをしたらどうかと。そこが教育内容の定着にも繋がるし、例えば、海外の皆さんとのやり取りの中でいかに日本文化を紹介するかということでの、よりよい説明ができる子どもたちにもなっていくだろうしということ、日本語と英語という大きな取り組みの中での、教科「日本語」の鳥栖ならではの定着ができるんじゃないかということも御指摘をいただいておりますので、そういった勉強もできればと。渋い顔が幾つか並んでおります。是非ここで歩みを止めずです、深掘りをしていけたらと思っておりますので、付言をさせていただきますたいと思います。</p> <p>他、何か。はい、どうぞ。</p>
古澤教育委員	<p>今のことに関連してですけど、例えば新任の、新任というか転入して来られる先生方についての配慮の意見が多数出ておりました。</p> <p>私は逆に、鳥栖市でこれに携わった先生方が市外に行かれて、何か鳥栖で教えてきた先生たちは違うな、どこか違うというふうな、幅の広さというか奥の深さというか、そういったのを、すぐには出</p>

	<p>ないかもしれませんが、見られる機会があるんじゃないかな。それはひょっとしたら独自のそういう教育に関わってたからというのを心密かに期待をしております。</p>
橋本市長	<p>ああ、御指摘ありがとうございます。</p> <p>今の件でちょっと参考までに申し上げますと、鳥栖市で小中一貫を始める前、あるいは日本語を始める前に、品川区の若月教育長と世田谷区の若井田教育長両方をお訪ねして勉強したことがあります。</p> <p>若月教育長から御指摘があったのが、品川区が小中一貫始めた時に、東京都内の教師の中では「品川送り」という言葉が流行ったそうです。「品川送り」というのは、「品川流し」といった方がいいのかもしれませんが、あんたは成績が悪いから品川にやられたんだと。あんな大変なところに行って大変だねという慰めの言葉で送り出されて着任をされたと。品川区の小中学校は自由校区も採られていて、学校区同士に競争させるということもされておりましたんで、その意味で大変なストレスが最初教師にかかったというふうに聞いております。</p> <p>ただ、何年か続けてられるうちに品川を経験された教師が引手数多になって、品川で鍛えられた先生が欲しいということで引き抜き合戦が始まりましたという御指摘があつて。やはり同様のことは世田谷でも御指摘があつてですね。やはりそういうところで鍛えられた先生方ってやっぱり教育力が付きますので、各地域から本当に欲しがられる人材になったという御指摘があります。</p> <p>是非多分今「鳥栖流し」みたいなですね、話が出てるのかもしれませんが、鳥栖の学校現場引き抜き合戦のね、狩場になってるぐらいのような引手数多の状況になると確信をしておりますので、是非よろしくお願ひしたいと思っております。</p>
西山教育委員長	<p>世田谷区が危なくなつて、制度としてどう長期的にこれをやっていくかというようなことでの御指摘では、これは非常に大切なことだと。今後はそういった仕組みをですね、どういった形で組み立てていくかということが1つ課題としてあると思います。</p> <p>その中でやはり1つは、鳥栖の場合はこの前決めていただいた教育大綱ですね。教育大綱の中に、いわゆるあの「グローバル化の中、国際社会で活躍できる人財」と。これは教科「日本語」を少しどっかに念頭に置いたですね、そういう表現がありまして。やっぱりそういう意味では、教育大綱の中にそういった理念がですね、位置づけられているというのが1つ。</p> <p>それからもう1つは教育プランの中の一番の柱立てとしてやっぱり小中一貫という柱があつて、それと教科「日本語」というのを</p>

	<p>最重要の課題の中に入れてある。</p> <p>そういった意味では、教育大綱と教育プランが連動してですね、やっぱり重要なものとして位置付けられているということがありますので、それを念頭に置きながらですね、今後の組み立てをですね、いろいろと検討していただければと思います。</p> <p>人が代わっても、教育大綱なり教育プランの骨組みというものはですね、大きくは変わらないと思いますので、そこら辺りも念頭に置きながらですね、具体的にどういった形で永続していくかということについてですね、検討していく必要があるんじゃないかという感じがいたします。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>他によろしゅうございますか。はい、どうぞ、教育長。</p>
天野教育長	<p>先ほどから教職員の資質ということが随分挙がっておりまして、今度お見えになった先生方といろいろ話すような機会もあるんですけども、そういった上で話をしてみると、やっぱり教科「日本語」をやりたいという先生方もたくさんおられますね。それからやっぱり教科「日本語」について心配だという先生もおられます。</p> <p>そういった意味で、以前市長とお話しした時に、やっぱりこれがひとつの資質を上げると、指導力を上げるためのひとつの手だてになるんじゃないかなってということもお話を聞きました。そういった意味で、今度は学習指導要領の改訂で「アクティブラーニング」ということで、まさに教科「日本語」を通してそういった幅広い授業展開ができるということを含めてですね、これは教科「日本語」を1つの起爆剤にして、新しい学習指導要領の内容についてはこれでやっていけるんじゃないかっていうところも含めて、これは推し進めていきたいというふうに、そして教職員の資質を上げたいと。将来は、鳥栖市の教員はいいなって周りから言われるようなですね、そういった教職員を育てたいというふうに思ってますし、私はできるんじゃないかなというふうに思ってます。</p> <p>それともうひとつ、佐々木先生から置き土産があつてですね。市長言われましたように、私もさすが佐々木だなんていうふうに思ったんですけども、今後教科「日本語」を2年目3年目やった時にですね、やっぱり各教科との関連性っていうのは非常に大事になってくるね。例えば道徳との関係が出てきますし、それから学級指導。箸の握り方ひとつにしてもですね、食育の指導で教えますし、それは教科「日本語」でも教えると。国語の俳句とか短歌の内容も教えるといったところの教科の絡みの中でそこら辺を上手にやっていくようなことが今後また大事になってくると思う中で、やっぱりそ</p>

	<p>の英語との関係っていうのが出てくると思う。だから教科「日本語」と各教科の関連というのをこう図っていった時に英語との関連も出てきますし、やっぱり英語教育の一環として英語で説明できる、その内容を説明できるといったことも今後出てくるだろうというふうに思ってますし、そういったことを見通しを持ちながらですね、これについては考えていきたいと思っています。</p> <p>以上です。</p>
橋本市長	<p>はい、ありがとうございます。他にございませんでしょうか。</p> <p>あと、この指導要領とかを考えられる時に、今、結構脳科学の進歩ってのが凄まじくて。その何歳頃の脳のネットワークの作り方はこうなると、だからこういう教え方が要るんだとか、あるいは、というのが色々出ておりますけど、そこら辺を考慮した教え方っていうのは何かなさっているのでしょうか。</p> <p>例えば、よくあるのが10歳が境目だよと。で、10歳以前はもうとにかく真綿が水を吸うように何でも入っていくという話。で、10歳を越えるとネットワークができてくるので、ロジックで教え込まないとなかなか頭の中に入っていくよという研究がありますよね。</p> <p>で、あと例えば音楽とか、感覚に基づいたものが求められるものは5歳までに始めとかなないと無理だよというのがありますよね。</p> <p>で、以前も御紹介したスプリングスの中田監督からは、世界で戦う選手は小学校で見つけて英才教育をしないともう無理だという御指摘もあります。</p> <p>ですから、多分その脳の中のネットワークの作られ方に応じた指導要領になつとかなないと、要するに低学年の教え方を高学年に持ち込んでも意味がないしということだと思っんですよね。だからそこら辺はどうなんでしょうね。何か意識されているんだったら。</p>
柴田学校教育課長	<p>難しいことは分かりませんが、確かに教科「日本語」の授業の前にですね、先生たちが言葉のトレーニングとかいうことで四字熟語を言わせてあったり、ことわざの頭のところを言って後半言わせたりすると、低学年でももう本当、立て板に水っていう感じでどんどん出てくるんですよね。そういったところで、やはり年齢に応じたトレーニングの仕方とか暗記のさせ方とか、時期に応じた教材教具、そういったところもあると思いますので、脳科学については詳しいことは分かりませんが、こういった教材をこういった教え方で、その辺は先生たちが教えてみて、非常にこういう教え方が効果的だったよっていうふうな事例もたくさんあると思いますので、調査研究して参りたいと思っております。</p>

橋本市長

ここで申し上げたのはですね、実は若井田さんと話をした時に、若井田さんが作られた世田谷の教科書の組み立てはそれを意識して作ったとおっしゃってますよ。

で、とにかく10歳までの間はどんなに難しいことでもね、教えたら全部頭に入りますと。とにかく10歳までの間に絶対これは頭に入れておきたいというものはね、全部盛り込んでおりますと。とにかく難しかろうがなんだろうが、頭の中に入っていきますと。覚えられますと。それが10歳までなんですよと。で、もう1回中学校とか小学校の高学年からでリフレインしていくのは、そこにロジックで意味付けをして、記憶を定着させるという意味でリフレインしてるんですよっていう御指摘をいただいたことがあって。

ただ、是非そこは、その脳科学のところは、すぐ勉強、ほんの4、5冊読めばできますからね、勉強していただいて、やっぱりこういう低学年、例えば3年生4年生まではこういう教え方でやっていきましようねとか、あるいは5年生以降はこういう教え方をしていけないと、低学年の教え方を持ち込んでもだめですよとか。そう、そんなとこまで仕組んでいただくと、非常にこうすっきりしたネットワークができるんじゃないかなと。

それで今、東北大学の瀧先生がお書きになった「生涯健康脳」というベストセラーがありますが、それを読むと、やっぱりいかに自分で勉強をしたくなるモチベーションを持たれる教育をするかと。だから、教え込んでいくんじゃなくて、種を蒔いて行って、自分でこうやって。

例えば、親に対するアドバイスって書いてあったのは、例えば図鑑とかで何か勉強しますよね。何とかという植物とか動物とか。じゃ、今度は、来週はそれを実際に見に行こうとか。で、それはどういう動きをするんだとかどういうにおいがするんだとかやって、それでじゃあ、その次はっていう、こう創造性をかき立てながら自分で勉強するその勉強の仕方というかですね。そういうモチベーションを持たせるやり方をすれば、やっぱり将来ぐんと伸びると。

例えば受験とかで、こう覚えなさい、あれを覚えなさいというだけでやった子は伸びしろが全然なくなってくるという御指摘があったりするので、多分、我々がやっていることは種蒔きなんですよね。ね、だから将来、自分で何か勉強したいなど。そういう時にこういう展開の方法があるよとかっていうそのヒントを詰め込むのが、多分教科「日本語」の役割だろうと。で、全部教え込む必要はなくて、その種を蒔いて、自分でこうやって育てて花を咲かせたらっていう、そういう何かことなんだろうなというふうに思っ

	<p>ておりますので、是非そこら辺の研究もしていただくとより中身のある教科書とか授業になっていくのかなという気がしておりますので、まあ参考まで。今どこでも売ってます、「生涯健康脳」。</p> <p>ということで、じゃ、日本語についてはよろしゅうございますか。本当に貴重な御意見ありがとうございました。</p> <p>では、今度はコンピュータの言葉のプログラミング教育について説明をよろしくお願ひします。</p>
<p>原教育総務課 総務係長</p>	<p>(資料に基づき説明)</p>
<p>柴田学校教育課長</p>	
<p>橋本市長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>これはですね、議題にのせていただいた経緯は、実は新聞記事がお手元にあると思います。坂村健さん、日本初 OS と言われる「トロン」の開発者でいらっしゃる、今東京大学の先生をなさってます。で、実は来年の4月からは東洋大学の教授になられる予定です。</p> <p>で、坂村先生と2、3回お会いしていろんな話をしております、坂村先生としては日本のIT分野の遅れつてのを大変危惧をされていて、今後、多分10年後20年後に、今労働と言われてるものの50%弱がAI、コンピュータに置き換わるだろうということが言われています。ですから我々も半分は仕事はあぶれるわけですね。</p> <p>で、そんな時にじゃ、何で生きていくのというのがあって、ある意味、世の中の大半をコンピュータが動かしていく時代になっていくと。その時にコンピュータに慣れ親しんでおかないと、世の中から取り残されるぞ、仕事にあぶれるぞという危機感とあともう1つ、日本そのものが取り残されていくということで、やはりあの、このプログラミング教育についてはイギリスが今一番先頭を走ってるって言われています。イギリスについては、政府で検討し始めて3年でプログラミング教育の義務化が決まったそうでございます、もう既に体系的な取り組みがなされているということが言われています。</p> <p>その意味で坂村先生としては、欧米の動きに比べると大変日本が遅れているという危機感をお持ちでして、そこを何とかしたいということでも政府の中でも発言をされていると。そこが今、文科省等が出してきてるものに少しずつ反映されてきているという状況です。</p> <p>で、これは恐らくは全ての人がどうこうということではないだろうと思いますし、恐らく小学校でやってもあまりどうかなっていう気もしなくはないですね。それよりもやっぱり字を書くとかやっぱり読み書きそろばんをしっかりやるのが小学校だなという気がし</p>

ますけれども、やっぱりその、論理的な考え方ができる中学校以降のところ、一定この分野に興味を持つ人達を英才的に教育をしていくというのは1つあるんだろなというふうに思っておりますので、その意味でちょっと皆さんに今日問題提起をして、どうなんだろなということで御議論をいただければと。

また、今日いろんな宿題をいただければ、坂村さんも、「ちょっと先生、安くアドバイザーになってもらえませんか」とかって言ったら、まあまあって話はされたんですけど、一応坂村先生の御意見としては、やはりコンピュータ教育を定着させるためには、その地域に住まっているこの分野の専門家をまず見つけなさいと。その人が核になってやらないと絶対に定着をしないし、体系的な教育ってのはできないぞということを言われまして。この地においてこの分野を網羅的に目配りできるノウハウを持った人材を見つけることをまずしなきゃいけない、それを見つけたら話にのってやるみたいな話をされましてですね、そういう宿題を先生からいただいているんですけど、そういうことで。いや、だから今やってる、その日本各地でやっているのは「なんちゃってプログラミング教育」で、あれは何の役にも立たんぞみたいなことをおっしゃってまして、ということでした。

で、ちょっと多分、今日はね、余り前提知識もなく提起をしておりますので、こういうあれを調べるこれを調べるということをご出題いただいて、調べて、また議論を深めていけたらと思って問題提起をさせていただいたわけです。

もう1回繰り返しますと、今後AIの普及も含めて、我々がやってる仕事の多分半分はコンピュータが代行していくと。そんな時に、我々は何をして飯を食うんだということが1つあるということが1つ。

それともう1つは、世界のコンピュータを引っ張っていっているのはやっぱりアメリカであり、何とかでありという、海外の人がほとんどであるということで、日本もやっぱりその分野の人材育成を急ぐ必要があると。それはもうとんがった人ですよ。ですからこれはちょっとエリート教育に近いところがあるんですけど、そういうもの。

そういう基本的な認識があつて、あと、これからコンピュータなしに生活ができるような世の中ではないので、せっかくそれを使わざるを得ないんだったら、より上手く使うやり方を一定程度皆が身に付けておいたほうが良いという認識もあつて。それがどういう仕組みで動いているかと、あるいはどういうロジックで動いているか



	<p>ということ認識しとくのは、ひょっとすると一般教養としてもありだろうということでの問題提起を申し上げたところです。</p> <p>今、坂村さんが開発されたトロンっていうのは、例えばエアコンとか、こういういわゆるIC制御しているOSとしては、大変な普及率を示しています。</p> <p>ということなんですが、ちょっと雲を掴むような話かもしれませんが、御意見をいただければと思います、はい。</p>
天野教育長	<p>時を同じくしてですね、プログラム学習、そんなに私も本当に内容的なものを別にこう勉強した訳でも何でもないんですけど、文科省の方はですね、2020年にも教科の必修化を検討していくってことで、こうアドバルーン揚げましたからね。あら、市長が言われたこともやっぱりこういう形で本当に小学校の方で。2020年っていったら英語教育、英語を教科化していくということで、5・6年、3・4年っていう時に、同じ様に教える内容を盛り込むというようなことを言ってますから、これはやっぱりもうすぐ来ますから、このプログラミング学習の内容について我々も検討する時期だと思ったんですけども、やっぱりその、英語活動が今度始まった時に、授業時数がこう決まった内容の中でやっていく時にですね、やっぱり今文科省が言っているのは、もう自由ルールで15分位を朝するとか。時間がどうしても足りないんですよ、授業時数が足りない。</p> <p>特にうちは教科「日本語」もやってるといっても含めて、内容をどれだけ充実したものにしていくかっていった時にですね、プログラミング学習をどのようにとらえていくかということ、やっぱり我々がしっかり研究しなくてはいけないんですけども、これが小学校で必須になった時に、文科省は新たな教科をつくるんじゃないんだけども、理科とか算数の内容にプログラミングを入れていきましょうというようなことで、今まで我々はどちらかというそれを手段として活用するような形でやってたという状況なんですけど、中身的なものを勉強するというようなことになった時には、かなりこれは、今市長さんのお話を聞いてちょっとレベルが高いところの分野での話でもあるんだろうということもお聞きしたんですけども。しかし我々はやっぱりその辺のところもしっかりこう把握して、しっかりこう準備はしておかなくてはいけないんじゃないかなという気はしましたけども。以上です。</p>
橋本市長	<p>多分学校の先生はまずほとんど勉強していないことなんです。それを教えるっていうのは大変無茶な話。</p> <p>もう1つ悩ましいのは、この世界は日進月歩なんですよ。日進</p>

月歩というよりもですね、要するに自分の経験から申し上げるとですね、SEの世界というのは3年間で自分の過去に持っている知識の9割を入れ換えていかないと次の3年間で過ごせない世界なんです。要するに技術というのが全く根っこが違うものから生えてくるので、前の経験が全く生きないんですよ。前の技術の応用では、この技術は理解できない。全く根っこが違いますから、一から勉強し直せ。だから、下手すると30歳位の中堅どころがですね、13歳で入ってきた高校生にすまんけどちょっとこれ教えてという世界。これが当たり前の世界なんですね。

ですから、ここでじゃあ勉強したとして、それが彼らが学校を出る15年後10年後に使えるか。使えないんです、これ。残念ながら。

だからそこは考え方のエッセンスをここで身に付けなきゃいけないね。で、そのエッセンスだけ身に付けて、次の新たなアイデアを加えた別の木を育てなきゃいけない。そういう大変苦しい世界なんです。経験で物が言えない話なので。

で、結果、我々SEというのは45歳定年と言われてたんです。どうしてかっていうと、45歳で管理能力がある人は管理職にどうぞ。で、もうそこで新たな知識を身に付けるのは無理ですから、じゃ、今までの経験を活かして、どっか子会社に行きませんか。あるいは定年までヒラで頑張りますかっていうことがそこで決まるんですね。そういう世界なんです。

だから、この中で飯を食おうとする、あるいはこの中で先頭に立ってやろうとすると大変苦しい。できる人はあれですけど、できない人にとってはこんなに苦しいことはない。

だから、例えば、天野さんに頼めば1時間でできることが橋本に頼むと1ヶ月経ってもできないって、こういう世界なんです。分からないんですからしょうがない。そういうことなんですね。で、橋本は残業代ばかりつけてという、仕事ははかどらんという世界ですよ。で、天野さんに頼めば1時間でぽっぽっぽとやってね、1月分の仕事を1日でしてくれる。天野さんに頼めやんっていう話。そう、そういう世界なんですよ。

だから、ここで丹念に教えたとしても、それは5年後はもう全然陳腐化して役に立たないことをしようとしているので、だから、そこでどういう体系で何を教えていくかと。本当に真の髓のところだけ教えていかないと、無駄なことをやっていることになるね。そこでいかに上手くプログラミングが技術的にできたとしても、何の役にも立たないという話。だからそこがこの難しさですね。

新陳代謝がものすごい激しい世界なので、その中でこのプログ

	<p>ラミング教育にどう相對するかってとっても重要だし、間違うと大変無駄な時間を過ごさせてしまいますんで、という怖さもある世界なんですね。だから、本当に何人かの世界が読める人たちの指導の下にやっとなないと、大変無駄な金と時間、費やしてしまうことになる。そこはしっかり議論しとかなないといけないなと思って、問題提起をしております。すみません。</p>
深川教育委員	<p>ちょっと方向的に違うかもしれないですけども、今話を聞いていると、必要性を否定する訳じゃなくて、必要性はあるなというのは感じながらも、先程の天野先生の話からすると、算数・理科辺りの内容の中で入っていったりすると、今でさえも極端に算数・理科っていうのは、特に理科なんかは最初はものすごく学ぶ意欲というか興味関心が高くて、段々年齢が上がっていくとガタンと落ちていき、算数はもうものすごい差が開いている状況が現実にありますよね。その中でまたそういう内容が入ってくると、もっともっと幅広くなってしまいそうな不安をちょっと感じながら聞いたところです。</p>
橋本市長	<p>二極化を煽るかもしれない。</p>
西山教育委員長	<p>さっき言われたその人材としては、例えばこの周辺といいますか、九工研があつたりいろいろしますけど、何かそういった人材がおられる可能性っていうのはあるんですか。</p>
橋本市長	<p>そこら辺は人材は多分いらっしゃると思います。はい、いらっしゃると思います。ただ、彼らは現役だったらとんでもなく忙しい。眠る時間をどうやってつくろうかという人たちなので、これもその、何といいますかね。こう、アクティブな人でないと意味がないんですね、これは。昔やってみましたって、我々から見たら何の役にも立ちやしない話なんで、そこは難しいとこなんですよ。</p> <p>だからあの繰り返しますけど、恐らく我々の生活というのはこれからもコンピュータと共存していかなきゃいけないと。共存していかなければいけないんだったら、それをより上手く活用できる使い方、どういう考え方でこれができてるんだっていうことを基礎知識として持っておくということは必要だろうということが1つと、あと、特化してそっちの分野に進みたいという子が出てきた時に、どうそれをフォローする体制を作ってあげられるかということが2つ目だろうと思うんですね。</p> <p>で、それで実際学校でどうされているか分かりませんが、例えば二進法とかね、十六進法とか、コンピュータでは当たり前に使ってる訳ですけども、そこら辺は勉強するチャンスがあるんですかね。</p>

天野教育長	ないですね。
橋本市長	<p>だから我々がSEになった当時にやったのは、コンピュータのハードウェアの設計は最終的には二進法に行くわけですね。二進法でやった時にどう上手く配列をしてあげるか。それが、メモリーが16メガだ、36ってその二進法から倍々倍々とやっていった時の桁なんです。</p> <p>その基本は多分これからも当分の間、まあ量子コンピュータが出てくるとまた違いますけど、あと10年ぐらいは持つんでしようという話で、二進法ってのはどうなんだよということぐらいはね。十進法との違いはこうですよとか。今あまり使いませんが、十二進法は昔使っていましたね。1ダースとかっていう言い方ね。そこをね、ゲームとしてやるのは面白いかもしれない。で、たまたまコンピュータってのは、電気が流れるか流れないかっていうオンオフで最終的にコントロールしてるので二進法なんですよっていうこととかですね。</p> <p>それから、もうとっても昔の話を申し上げると、昔の汎用機と言われるやつ、ま、でっかいマシンですけど、やっぱりコンピュータの配線があって、配線が短ければ電気信号は早く伝わるので、その配線の短い所に使用頻度の高いものを置いて、配線の遠いところは使用頻度の低いものを置いてとかね。</p> <p>あるいは、ディスクも昔はこのくらいありましたので、要するに円周はたくさん容量があるんですね、距離が長いですから。真ん中にいくに従ってその容量が低くなっていきますから。で、ヘッドが動いていきますけど、ヘッドが動く距離が短い方が読み取り速度が早くなりますので、一番読み取り速度が早い所に使用頻度の高いものを置くとかね。</p> <p>そういうことまでしてやってた時代があって、今はそれは無視できるぐらいになりましたんであまり気にせずできてますけど、やっぱり大元の基本は変わってないと思うんですけどね。そこをいかにこう体系的に教え切れるかっていうところ、もうそれを聞いただけでもういやあって話になるでしょう。それよりは日本語だよねという話に戻るのかもしれないけど。</p>
深川教育委員	<p>はい、今、話を聞きながら、最後に「それよりは日本語だよね」っていうところを言われて、本当に笑ってしまったんですけど、今の学生さんたち見てると、本当に文字が書けない学生さんが非常に多いんですよ。ばらばらに文字を書いてしまう。「働く」という字が、「人」と「重たい」という字と「力」がもう別々の文字になって、我々が読もうとすると並んでるような文字を平気で書く。まあ</p>

	<p>うちの学生さんたちのレベルが分かるかとは思いますが、それが大体真ん中ぐらいの学生、大人の人たちだろうなど思いながら。読めないんですね、書いたものが。で、封筒を持ってきて、「履歴書在中」って書いた封筒がありますよね。これで出せるかっていう質問をしてくるんですね。出したことないですよ、手紙も。今の大学生とか、全部「あけおめ」の時代ですから。</p> <p>だから、本当に日本語を知らない日本人がいっぱいいて、日常的に使われるものを知らない日本人がいっぱいいるんだっていうのを改めて感じた時に、やっぱり教科「日本語」の方がもっともっと大事だよっていうのをすごく感じながら、今お話を聞いていたところです。</p>
橋本市長	<p>そこでちょっと御紹介すると、この前弘堂国際学園というのに海外からの留学生の授業を見に行っただけですけど、その先生がおっしゃるのも、書かせないと覚えませんって言われました。文字として書くこと。書くことによって記憶が定着しますから、書くことは絶対避けては通れませんって。それがないと覚えませんって言われてましたので、やっぱり読み書きそろばんは大切です。</p>
古澤教育委員	<p>すごい世界なんだなというふうなのを実感しましたが、ちょっと前にテレビでも挙げてたんですけど、インド。インドも今、ITはもうアメリカを追いついていくぐらいの勢いでやってるんですけど、これは国を挙げて、又個人も身を立てる方策として、もう立身出世するにはこれしかないということで、それを広く一般全部学ぶんじゃなくてももう特化してやってると。その結果が、大学4年卒業する時には大きな一流の企業、もう全部、ヤフーから何かからスカウトしに来る。それを大学卒業する学生の側が「おたくじゃない」、個別で交渉しながら、もう信じられないぐらいの契約をしてると。</p> <p>で、話した中で、これは特化した形になるだろうと。</p> <p>これも、2020年から国がやりますということ、この頃もテレビで言ってましたけど、どういったことを、狙いがどこに、どの程度考えてあるのかなっていう気がしなくもありません。</p> <p>ただ、お話の中でももう皆さんお分かりのように、これから生きていく子供さん方には、必ず一定レベルの部分は知識としても技能としても知っておく必要があることですので、一定の取り組みはやむを得ないかなと。一定やりました。それから先は個人の判断とかいうふうになってくるのかなというふうな感想を持ちました。</p>
橋本市長	<p>それで、これのベースはですね、結局基里問題なんですね。それで、例えば基里中学校にこれに特化したコースをね、1コースつく</p>

	<p>って、その市内とかもう県内まで広げてもいいんですけど、そこでやってみてもいいのかなあと思ったりしておりますね。</p> <p>ただ例えば、この前、囲碁で世界一の名選手に5勝1敗でコンピュータが勝ちましたね、AIで。あのAIのディープラーニングを理解できる数学者ってのは世界で50人ぐらいしかいないんだそうです。その50人はもう引手数多だそうでした。まあだからそこまでのことをするしないっていう話も。彼も37歳ですよ、まだね。</p> <p>ですからそういった特異的なところにチャレンジする支え、支えられる環境を作るっていうのもひとつ、今後必要かなと思ったりもしてるんですけど。でも作っても来る人がいなければ意味がないんですけど。</p>
天野教育長	<p>武雄市の方がですね、このプログラミング学習というのを始めて、反転教育だのスマイル学習だのいろいろやって、そこの1つで今やってるのが、山内西と若木がやってるんですけども、私もこのプログラミングのスタートは、やっぱり魅力ある学校をつくるっていうそういったところで、基里小中辺りで何かこう魅力のある内容、学習内容ができないかっていった時に、こういったことを考えることは可能だろうっていうような感じがしました。これを鳥栖全体で広げるっていうのも1つの。それを特化して基里にした後、全部各学校にやるっていうのはやるんですけども、これを見ていたら、DeNAとの締結をしてそこにお金も落として、そして皆にタブレットも全部持たせてとか、そういった形のものをそこにやるんだったらある程度急激な形でやっていける。しかしそれだけの魅力があるのかなという、どうかなって。今教科「日本語」をこれだけやってる中でって思うんですけども、今特認校辺りでやる中でですね、やっぱり魅力のあるものを何か見つけてやるべきだというのが1つの方法としたら、やっぱりそういうプログラミング学習辺りを1つ特化してやると。そのためにしっかりお金をつけて保証して、指導者の講習をしてっていうような形のものであるんだたら、これはもう早い時期に皆で話し合いながらやれることはやれる。やれるだろうなという気持ちを持ちました。</p>
橋本市長	<p>どうですか、保護者の立場から。</p>
吉原教育委員	<p>どうですかね。今、プログラミング教育ちゅう中で、あまりにも専門特化したような内容ですので、今の先生たちではこれ以上の教育という科目を増やすというのはどうなのかなということで、さっきもおっしゃったような民間の特化したような、DeNAじゃないけど、そういうところとまあ活用しながら、特別なコースじゃないけど、作るというのはいいのかなと思いますが、ちょっとまあ日常</p>

	<p>の中でこのプログラミング教育ちゅうのを入れるのは大変だろうなという率直な意見です。</p>
橋本市長	<p>これ例えばですよ、DeNAとかがかんでやってますけど、教師の資格とかってどうなんですかね、そこら辺は。 関係ない？</p>
柴田学校教育課長	<p>授業をするにあたっては教員免許がないと授業はできないと思いますので、必ず学級担任が教室に居て、TTのゲストティーチャーっていう形で担任がその教室に居れば授業としてみなしていいと思います。</p>
橋本市長	<p>担任の先生も分からないですよ。</p>
天野教育長	<p>実際見に行きたいなというのが皆教育委員さんの一致した意見で、毎月1回くらいの授業公開みたいなのがあってるみたいですね。</p>
橋本市長	<p>本当は坂村さんか何か言ってですね、坂村さんがこれはって思うところを紹介してもらえませんかかって言って。あれだったらダメなんだよなとかっておっしゃってるから、だから先生が一番いいと思うのはどういうものなんですかってのを推挙してもらって、そこに行くのはどうですか。</p>
古澤教育委員	<p>佐賀県では武雄の取り組みですけど、インターネットでずっと調べてたら、京都の小学校が幾つも何かやってたような気がしますけどですね。日本では京都が進んでるのかなというふうに思いました。あの、京都に行きたい訳ではありません。</p>
深川教育委員	<p>専門家の方を入れることに反対してる訳じゃなくて、さっきも言われたように、一緒にやる先生たちがものすごく負担過重になってついていけませんっていう状況になったら、これまたとっても大変なので、そこら辺のバックアップをどんなふうに、意気込みというか、手を上げてやりたいという先生たちを集めたのかっていう、何かそこら辺もしっかりと確認した上でないと、やれそうですよねっていう言葉は簡単に言えないのかなっていう感じがちょっとしました。</p>
橋本市長	<p>これもう先生の出る幕はないんじゃないですか、普通。多分分からないもん。</p>
深川教育委員	<p>分からないんですよ。</p>
天野教育長	<p>だから結局、武雄、どのような形でやっているのかなあっていうのがね。</p>
橋本市長	<p>だからそう、武雄もまあ近いですから、武雄温泉もありますし。行って見て。それと、坂村さんあたりがね、ここだったら及第点やってもいいよっていうようなところも御紹介いただいて見に行くとかですね、いうのはあるのかなあという。</p>

	<p>で、このイギリスのね、プログラミング教育の教科書とか体系と        かって手に入らないんですかね。文科省かなんかに言って。        もしあれならね、安東さんに言って、彼は昔の郵政系ですから多        分そこら辺は詳しいはずなんで、安東さんから手を回してもらって        イギリスのプログラミング教育の体系がまとめられた資料、集めら        れないですかね。そこを解析をしてやるっていうのはひとつ手かも        しれませんね。        あとさっきご紹介のあったインドとか、あとイスラエル。イスラ        エルが今すごいんですよね。今、我々が当たり前のように使ってる        かなりの比率でイスラエルで作ってますからね。ソフトウェア、普        通に使っているやつ。</p>
古澤教育委員	<p>海外系の資料の収集であれば、東京か大阪かに、例えば留学生に、        海外視察する時に、窓口になってくれるところがありますよね。あ        あいうところで事前に大概の資料はやり取りして、で、現地に行っ        てっていう経験がありますので。</p>
橋本市長	<p>ああ、ちょっと御紹介いただいて。</p>
古澤教育委員	<p>そしたら、そういうところに行くと収集できるんじゃないかな。        イギリスについても、かなり、20年も前ですけど、こんな資料ま        でもらえるのっていうようなのをロンドン事務所の時にそこから        各種いただいたんですよね。</p>
橋本市長	<p>ちょっとお力添えいただいて、ちょっと勉強してみましようか        ね。だから多分ね、皆知らない世界なので、怖気付くんですよ、こ        れね。</p>
深川教育委員	<p>武雄市が力を入れるのには、それだけの訳があると思いますね。</p>
橋本市長	<p>だからかなり危機感が強いんです、もう。だから例えばWindows        しかり、今ウイルスとかを撃退するソフトがあるでしょ。これ、        日本製、ゼロなんですよ。イスラエルであったり何であったり、要        するに国防が絡みますんで、あそこら辺が全部つくってるんですよ        ね。で、主要なソフトウェアで日本製っていうのは、どうでもいい        LINEとかですね、そんな類しかない。ゲームとか。だから肝心要の        コアのところのソフトウェアって、日本が絡んでいるのはほとんど        ないのでその危機感は大変強い。        ということは、下手をすると、そこら辺を握っているということ        はですね、要するに多分国防総省あたりは日本の企業なんか入るの        は当たり前で、全部情報収集しているんですよ。全部抜かれてるん        です、多分。その危機感が多分強いんですよね。黙って盗ってっ        てますから。で、だから、我々のインターネットでやり取りしてい        るデータは必ず、世界の13カ所か何かのサーバーを必ず経由する</p>



	<p>んです。そこで全部抜かれていますよ。そこは大変な問題なんです。我々のやり取りしていることは全部筒抜けになってるわけですから。その危機感はとっても強いと思います。</p>
天野教育長	<p>いずれにしても、ちょっと基里っていうことは置いて、それはあまり言うともた非常にいろいろな問題が出ますから。ただ、基里はやっぱり何らかの形で、こう学級が減ってる分も人が減ってるのも含めてですね、何らかの手立てを取らなくては、地域の方も。だからその辺についてはしっかり考えていきたいし、1つの手だけが1つはプログラミング学習でもあるでしょうし、そういったことはやっぱり今から教育委員会としてもしっかり情報を集めてですね、どういった形のものが可能なのかということですね、しっかりこう研究していきたいというふうに思います。</p>
橋本市長	<p>基里地区にはなかなかなじまないでしょう。地域としてね。</p>
天野教育長	<p>だから地域としてそれをね、地域性があるから、うちなんかそんなもの必要ありませんよっていう声は今聞こえてきそうな気がしますね。</p>
橋本市長	<p>聞こえますよ。それよりかはね、家の造り方とか。</p>
古澤教育委員	<p>一応、基里の問題は通学区域審議会です。</p>
天野教育長	<p>今度しますからね。</p>
古澤教育委員	<p>今度ありますので。</p>
天野教育長	<p>本当はそれじゃダメなんです。ね。</p>
古澤教育委員	<p>まあエリアだけの話ですよ、あれは。</p>
橋本市長	<p>ですから基里のテコ入れはね、他の面からもちょっと考えなければいけない、恐らく。だから、1つは全然切り口が違うんですが、駅周辺の開発、ここで1つ方向性を出したいなという思いがありまして、そこは基里に振り向けるところは何か盛り込みたいなと思ってますので。</p> <p>ちょっと初回でございますので、一応問題提起ということで。一応資料集めについてはいろいろお知恵を借りながら、また努力して参りたいと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>他に皆様の方から、あるいは事務局からございましたら。よろしいですか。</p> <p>今日はこれで終了いたします。どうも本当に貴重な御意見ありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。</p>